

薬科学教育部

I	教育の水準	教育 10-2
II	質の向上度	教育 10-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 博士後期課程（創薬科学専攻）と博士課程（薬学専攻）では、平成 24 年度から主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を導入している。
- 平成 26 年度から、海外から入学を希望する学生にはインターネットで面接を行う入学者選抜試験（英語プログラム）を実施しており、平成 27 年度に1名が入学している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- e-learning 科目を導入し、各分野の講義や演習、博士論文研究は夜間に集中的に行うなど、社会人学生を受け入れる体制を整えている。
- 平成 21 年度に採択された、文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」により、学内の医療系5教育部とともに「肥満・糖尿病クラスター」、「心・血管クラスター」等、6分野の教育クラスターを形成している。また、5教育部合同のリトリートを開催するなど、領域横断的・学際的研究を自律的に遂行できる指導体制を確立しており、プログラム終了後もクラスターごとのミニリトリートを開催しており、学生の発表の機会と教育部の枠を越えた交流を継続している。
- 薬学英语研修プログラムを実施し、外国人教員を講師として招き、講演会、特別講義、グループ学習等を通じて、国際学会発表の活性化に取り組んでいる。また、平成 26 年度から「英語学習サポート」として、非常勤講師による英会話学習や英語プレゼンテーションのサポート、英文校正、留学相談等を行っている。

以上の状況等及び薬科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における学会発表数は平均130件となっており、受賞数は、平成21年度と平成27年度を比較すると、博士前期課程は2件から5件、博士後期課程は2件から6件となっている。
- 平成27年度に実施した修了生アンケートの結果では、「先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として活躍できる能力」について、「大いに修得した」又は「修得した」と回答した割合は、博士後期課程では80%以上となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 博士前期課程の進学率は、平成23年度の29%から平成26年度の40%となっている。また、第2期中期目標期間における博士前期課程の就職率は99.3%で、平成23年度以降は100%となっている。
- 平成27年度に実施した修了生の就職先へのアンケート結果では、修了生の資質や身に付けている能力について肯定的に回答した割合は、責任感、倫理観は78%、社会的常識、チームワークは89%となっている。

以上の状況等及び薬科学教育部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 21 年度の文部科学省組織的な大学院教育改革推進プログラム「医療系クラスターによる組織的大学院教育」により、学内の医療系 5 教育部と共同で 6 分野の教育クラスターを形成し、プログラム終了後もミニリトリートによる学生の発表の機会を設け、教育部の枠を越えた交流を継続している。
- 平成 26 年度に英語プログラムを導入し、海外から入学を希望する学生に対して、面接試験をインターネットで実施しており、平成 27 年度に 1 名が入学している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 博士後期課程における論文掲載数は、平成 21 年度の 22 件から平成 27 年度の 30 件へ増加している。また、受賞数について平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、博士前期課程は 2 件から 5 件へ、博士後期課程は 2 件から 6 件へそれぞれ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。